

クラシキ文華新聞

Vol. 13

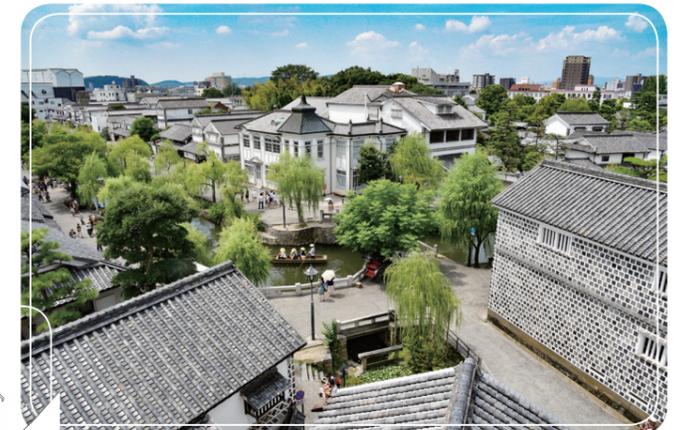
第13号発行のご挨拶



岡山県南部に位置する、倉敷市。このまちでは、歴史と伝統が常にアップデートされ、新しい文化が生み出されています。例えば、町家や古民家を利用した新たな観光スポットが次々と生まれている、倉敷美観地区。例えば、日本初の私立西洋美術館である「大原美術館」。例えば、繊維産業を進化させ続けてきた「国産ジーンズ発祥の地・児島」。このまちにあるのは、歴史や伝統だけではなく！そんな、倉敷で華開く新しい文化「クラシキ文華」の魅力をたっぷりとお伝えする「クラシキ文華新聞」第13号をお届けします。ぜひ、ご一読ください。

3つのストーリーが認定！ 日本遺産のまち 倉敷市

日本遺産は、地域の歴史的特色や文化財にまつわるストーリーを国が認定するものです。倉敷市は昨年度に、「繊維産業発展の物語」が日本遺産に認定され、今年度、「北前船寄港地」と「古代吉備の遺産」のストーリーが新たに認定されました。3つの日本遺産認定は全国初であるとともに、倉敷市全域に構成文化財が存在するなど、まさに「日本遺産のまち」となっています。



- 認定されたストーリー
- 一輪の綿花から始まる倉敷物語
～和と洋が織りなす繊維のまち～
 - 荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間
～北前船寄港地・船主集落～
 - 「桃太郎伝説」の生まれたまち おかやま
～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～

**学習まんがで楽しく学べる！
「日本遺産 倉敷市のひみつ」**

倉敷市日本遺産推進協議会は、学研プラスとタイアップし、認定された日本遺産のストーリー「一輪の綿花から始まる倉敷物語～和と洋が織りなす綿花のまち～」を、分かりやすく学ぶことができる学習まんがを作りました。

倉敷市ホームページ、学研キッズネットで読むことができます。




【あらすじ】
小学生のハナは、倉敷市に住む女の子。倉敷市は「繊維のまち」として有名で、ハナのお父さんもジーンズメーカーで働いている。その高い技術で作られた倉敷市のジーンズに惹かれて日本に来た、フランス人のジュリアン。ハナとジュリアンは、倉敷市がもともと海だったこと、干拓した土地に綿花を植えたことなど、倉敷市の歴史を学んでいく。そして、ジュリアンはあることを決意して…!?

歴史と文学のまち、真備
奈良時代の偉人「吉備真備公」ゆかりの地であり、作家・横溝清史が、名探偵「金田一耕助」を生み出したまち。

果物と花のまち、船穂
温暖な気候と、高梁川の豊かな水を生かし、マスカットやスイートビーなどの栽培が盛んなまち。

大原美術館
倉敷の実業家・大原孫三郎が、洋画家・児島虎次郎に託して収集した、西洋美術などを展示する日本初の私立西洋美術館。

倉敷美観地区
天領として栄えた時代の風情と美しい景観を色濃く残すまち。

国産ジーンズ発祥の地、児島
足袋・学生服・作業服と、繊維のまちとして発展し、日本で初めてジーンズを国産化しました。全国のジーンズファンからの注目を集めています。

水島コンビナート
瀬戸内海に臨む、約2500haの空間に、250を超える事業所が立地する水島コンビナート。美しく光る夜景は「夜景100選」にも選ばれています。

レトロな港町、玉島
備中の玄関として栄えた港町で、今でも当時の商家や土蔵が残っています。昭和レトロな商店街など、ノスタルジックな町並み散歩も楽しめます。

岡山県倉敷市はココ

倉敷って、こんなところ。



クラシキ文華新聞 Vol.13
平成 30 年 6 月 吉日 発行
【編集・発行】
クラシキ文華新聞編集部
(倉敷市くらしき情報発信課内)
〒710-8565
岡山県倉敷市西中新田 640
TEL086-426-3061
FAX086-426-4095
pubinfo@city.kurashiki.okayama.jp

WEBもチェック！
クラシキ文華
http://citysales.city.kurashiki.okayama.jp/
クラシキ文華 検索

倉敷市公式 Facebook
https://www.facebook.com/KurashikiCity

倉敷市公式 Instagram
https://www.instagram.com/kurashiki_city/

編集後記
祝！「日本遺産のまち倉敷市」。3つの日本遺産で語られるのは、倉敷市の歴史、文化、産業、ロマンス…。新たな認定により、市内全地区に構成文化財が存在することに。あらためて、郷土のもつ奥深い魅力を感じています。4年目となった「クラシキ文華新聞」を引き続きよろしく願います。(安藤・村七)

倉敷市を彩る 3つの日本遺産のストーリー

一輪の綿花から始まる倉敷物語
～和と洋が織りなす繊維のまち～

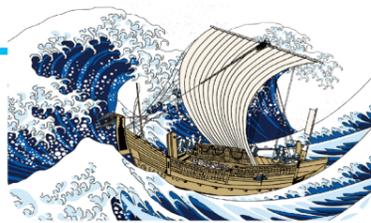
400年前まで、現在の倉敷市の平野部一帯は「吉備の穴海」と呼ばれる一面の海でした。江戸時代から始まった干拓によって海は陸地になり、そこで塩分に強い綿やイ草などの作物が栽培されました。それらを原料として倉敷の繊維産業は花開き、現在では製品出荷額日本一の「繊維のまち」になっています。



▲ストーリーは、倉敷アイビスクエア(写真左)など、31の文化財で構成される。倉敷では、江戸期の白壁商家群の中に、近代以降に建てられた洋風建築が発展のシンボルとして風景にアクセントを加え、訪れる人々を魅了している。

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間
～北前船寄港地・船主集落～

北前船の寄港地であった玉島・下津井には、北海道や東北地方から様々な商品が持ち込まれました。中でも肥料として綿などの栽培に欠かせない干鰯やニンシ粕などは、北前船によってもたらされ、帰り荷として、綿・菜種・塩などの商品が喜ばれたことから、盛んに商売が行われ町が大きく発展したのです。



▲北前船とは江戸から明治にかけて、主に日本海航路で活動した商船。北海道から大阪までの各地の港を結び、動く総合商社として、また文化の伝え手として大きな役割を果たした。倉敷市の構成文化財は、旧荻野(おぎの)家母屋・躰(にしん)蔵(写真左)など10件。

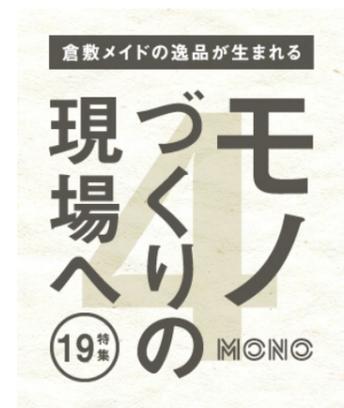
「桃太郎伝説」の生まれたまち おかやま
～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～

倉敷市の北部の庄・真備地区は、吉備国の一角として、多くの遺跡が残る地域です。古代吉備は、温暖な気候と瀬戸内海の流通、豊かな平野に恵まれ、大和や出雲に匹敵する強大な勢力を誇り、「桃太郎の伝説」にも登場する桶築遺跡や鯉喰神社、箭田大塚古墳など多くの遺跡が残されています。



▲おとぎ話「桃太郎」の原型になったとされる、吉備津彦命(きびつひのみこと)の鬼退治伝説をテーマとしたストーリー。倉敷市の構成文化財は、桶築(たてつき)遺跡(写真左)など6件。倉敷は、伝説に彩られたロマンあふれる地域でもある。

クラシキ文華 特集記事



倉敷の老舗企業「ベガサ スキャンドル(株)」。国内屈指のキャンドルメーカーです。その伝統の技に現代的な感性を融合させて生み出した、これまでにないキャンドルブランド「倉敷製蠟」が、今、国内はもちろん海外からも注目されています。キャンドルのある空間と時間、心の燈火の創造に向けた挑戦をレポートしました。



▲CARD CANDLE(中央)は、DESIGN TOKYO大賞 2017 グランプリ、グッドデザイン特別賞[ものづくり]、グッドデザイン・ベスト100、ニューヨークADC賞メリット賞を受賞!



クラシキのイベント

ちょっぴり贅沢なひとときをあなたに!
倉敷アフタヌーンティー

イギリス発祥の喫茶習慣で、紅茶とともに軽食やスイーツを楽しむ優雅なお茶会「アフタヌーンティー」。2・3段重ねのケーキスタンドが象徴的なアイテムです。貴族のご婦人たちの間で社交の場として広まったのが始まりといわれており、日本の茶道に近い存在ともいえます。そんなアフタヌーンティーを、倉敷では、特産品である生の「桃」と「ぶどう」にこだわった「倉敷アフタヌーンティー」としてご用意しました。ちょっぴり贅沢なティータイムをお過ごしください。

- 期間…7月13日(金)～9月30日(日)
- 場所…倉敷市内 21 店舗



| イベント | 日程 | 場所 | 内容 |
|----------------------------|--|-----------------------------|--|
| 倉敷天領夏祭り | 7月21日(土) 9時半～21時半 | 倉敷中央通り 周辺、倉敷駅前 前商店街など | 倉敷の夏の代名詞。総勢 3,500 人以上による、「代官ばやし踊り」「OH!代官ばやし踊り」は壮観! |
| 瀬戸内海の夕景と水島コンピナート工場夜景クルージング | 7月7日(土)・14日(土)・16日(月)・ 21日(土)・28日(土)・8月4日(土)・ 11日(土)(19時出航) など | 児島観光港 | 瀬戸内海に沈む夕陽、瀬戸大橋、日本有数の工業地帯の夜景を海上から一度に堪能! |

イベント情報は、[Facebook](https://www.facebook.com/KurashikiCity) (https://www.facebook.com/KurashikiCity) でも紹介しています!

倉敷
うまれの
地酒

20 特集



「きひ(吉備)のとよ酒は吉美豊酒なり…」倉敷を含むかつての吉備地方の酒は、古の和歌集「歌林捨葉集」に歌われたほどの美酒。中国山地の花崗岩や石灰岩に磨かれた高梁川の雑味がなくまるやかな伏流水と、上質な酒造りに適した米、そして江戸時代に誕生した備中杜氏によってその味わいはさらに深められてきました。

また近年は、個性的なビールや特産品のフルーツを生かしたワイン・リキュールも造られています。

▲多くの蔵が、原酒をそのまま伏見や灘などの酒造会社に売っていたため、倉敷は酒どころとしてあまり知られていなかった。しかし近年、自らのブランドで発信する蔵元が増え、倉敷の地酒は県内外の人から注目を集めている。

